

職員研修実施状況

H25年9月～11月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成25年9月3日(火)・10日(火) 8:45～16:30	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター医療的ケア研修 第3クール	船戸園長 他	46名	5階ホール
平成25年9月3日(火) 17:30～18:30	教育研修部	腰痛対策講習①	彦田エキスパート理学療法士 宮崎科長補佐	43名	5階ホール
平成25年9月6日(金) 16:30～17:30	教育研修部	腰痛対策講習②	彦田エキスパート理学療法士 宮崎科長補佐	28名	5階ホール
平成25年9月20日(金)・27日(金) 8:45～16:30	教育研修部	大阪市重症心身障がい児者地域生活支援センター医療的ケア研修 第4クール	船戸園長 他	46名	5階ホール
平成25年9月20日(金) 18:00～19:00	教育研修部	小児訪問診療の現状と地域支援に期待すること(公開)	かがやきクリニック院長 南條浩輝 先生	68名 (内、外部14名)	5階ホール
平成25年9月27日(金) 18:00～18:45	リハ部・看護部	改めて重症児の「食べる」を考える	リハ部ST 松川達也 ふたば看護師 諏訪恵子	40名	PT室
平成25年10月1日(火) 17:30～18:30	教育研修部	ドラッガー経営学と非営利組織のマネジメント(公開)	島田恒先生	68名 (内、外部2名)	5階ホール
平成25年10月24日(木) 17:30～18:30	褥瘡対策委員会	褥瘡ケアの基礎(公開)	摂南大学 看護学部 松田常美先生	80名 (内、外部26名)	5階ホール
平成25年10月25日(金) 18:00～18:45	リハ部・看護部	訪問事例から学ぶめぐみの役割 在宅における摂食・嚥下の課題	リハ部OT 森田 傑 めぐみ看護師 岩本しのぶ 門田早苗 (AV) 牛尾実有紀	50名	PT室
平成25年10月31日(木) 17:30～18:30	褥瘡対策委員会	褥瘡ケアとドレッシング剤の選択(公開)	摂南大学 看護学部 松田常美先生	70名 (内、外部24名)	5階ホール
平成25年11月5日(火) 17:30～18:30	教育研修部	施設内の虐待	愛徳整肢園 下山田洋三先生	81名	5階ホール
平成25年10月7日(月)～11月29日(金) 延べ24日 10:00～14:00	教育研修部	医療的ケア研修棟見学	事務局(天野・山本) 案内(3・4階病棟スタッフ)	3日間終了者 165名	3階・4階 フェニックス
平成25年11月8日(火) 17:30～19:00	教育研修部	障がいのある子どもと家族の支援 ～思春期の到来を視野に入れて～新採用者対象	服部祥子先生	52名	5階ホール
平成25年11月21日(木) 17:30～19:00	教育研修部	重症心身障害児者の早期老化現象	びわこ学園医療福祉センター野洲 小川勝彦先生	93名 (内、外部15名)	5階ホール
平成25年11月29日(金) 18:00～18:45	リハ部・看護部	3Fフェニックス摂食マニュアル見直しを通して	摂食嚥下認定看護師 牛尾実有紀 リハ部ST 平野彩	45名	PT室

葦

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

大阪発達総合療育センター機関紙
第12号 平成25年12月

馬場清先生追悼記念号

弔 辞

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長 梶浦 一郎



馬場 清先生、先生は当センターに就任されてから、昼夜の別なく利用者さんの医療に心身共に捧げて頂きました。そのお仕事ぶりには職員一同、またご家族からも心から信頼され、尊敬されておりました。私達が先生の献身的な働きについで、先生の体調も考えず無理なお願いをしていたと、今になって後悔しております。御自分の健康は先生の専門領域ですし、十分認識して苦しんでおられたのではないかと悔やんでおります。

今となっては詮無いことですが、どうかお許し下さい。今後は職員一同、先生の御意志、御仕事振りを引継ぎ生かしていくよう努力いたします。どうか、ごゆっくりお休みください。本当に有難うございました。

馬場清先生を偲んで

大阪発達総合療育センター センター長 鈴木 恒彦



いつも温和で微笑みを絶やさない馬場清先生が突然御逝去され、医局の中は空虚で無念な時空間と、埋めることのできない後悔に落ち込んでしまいました。初めて先生にお会いしたのは、4年前に当センターの当直医として夕方向った時でした。小児循環器の御高名な先生と伺っていましたが、人を緊張させないお人柄で、遅い時間にもかかわらず気軽にセンター内のことを教えていただきました。

代理の弁当申込みの件では仙台まで問合わせをいただいたり、東日本大震災の被災の折には力強い励ましのお手紙をいただいたり、本来は偉い先生のご親切な気配りに接し、私としてはただただ恐縮し申し訳ない思いばかりでした。フェニックス入所申の方が亡くなられるもしもの際の看取りの在り方について、ある日先生から突然質問をうけました。私にとって思いもよらない問題で、答えに窮していたところ、「私たちの年は看取りの立場だけでなくいつ看取られる立場になるか、際どいですよね」と微笑んでおられたことが忘れられません。身近な家族に囲まれて看取られたいという思いは、皆さん一緒でしょうね…とつぶやいておられた先生、どんなお答えをお持ちだったのでしょうか。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力 誠にありがとうございます

【寄付金と寄付物品】

寄付者(敬称略)	寄附金	寄附物品
9月分	8月分 楽基金 糸川 佳興・(株)コジマ	オムツ
10月分	9月分 楽基金 木馬園 楽基金・井上 明生	オムツ 救急箱一式
11月分	10月分 楽基金 匿名 フェニックス家族の会	パズル・キーホルダー 本
	11月分 楽基金	各種菓子 46箱

イベントピックアップ

なでしこバザー

毎年恒例のなでしこバザーが10月21日から10月25日まで行われました。皆さまから頂いた寄付の品物や、活動で作ったマグネットやフォトフレーム、苗木などを出店しました。今年は、天気の良くない日もありましたが、例年通りたくさんの方にきて頂くことができました。皆さまのご協力あり、今年も大盛況のバザーとなりました。本当にご協力ありがとうございました。

ふたば運動会

10月20日(日)、あさしお園での運動会も35年目を迎えました。200人を超えるご家族の方が参加され、会場は大盛り上がり!! あたがい拍手と声援の中、みんな一生懸命がんばりました。

第65回 保健文化賞 贈呈式

この度、当センターは第65回保健文化賞を受賞いたしました。贈呈式は平成25年10月23日にホテルオークラで行われ、皇居で天皇、皇后両陛下に拝謁を賜りました。詳しい報告は次号でいたします。

あさしお園運動会

10月13日ふたば運動会を行いました。開会式では、5歳児の子どもたちがみんなで作った応援旗を掲揚すると、会場からは拍手と歓声が溢れました。たくさんのご家族の方が見守る中、子どもたちはそれぞれに日々の保育やリハビリの成果を発揮することができました。



大阪発達総合療育センター
URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

- 【保険医療機関】 南大阪小児リハビリテーション病院
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-11-21
TEL 06-6699-8731 FAX 06-6699-8134
- 【併設施設】
 - わかば 医療型障がい児入所施設(主として肢体不自由児)
 - ふたば 児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業
 - フェニックス 医療型障がい児入所施設(主として重症心身障がい児) 療養介護事業・重症心身障がい児 短期入所
 - なでしこ 生活介護・児童発達支援事業
 - めぐみ 訪問看護ステーション
〒546-0035 大阪市東住吉区山坂 5-11-21 TEL 06-6699-8731 FAX 06-6699-8134
 - あさしお園 児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・放課後等デイサービス
 - ゆうなぎ園 児童発達支援センター(主として難聴児) 保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業
〒552-0004 大阪市港区夕風 2-5-3 TEL 06-6574-2521 FAX 06-6574-2524

馬場清先生を偲んで

馬場清先生を追悼して

大阪発達総合療育センター 副センター長
南大阪小児リハビリテーション病院 病院長 船戸 正久

去る10月21日、敬愛する馬場清先生が突然ご逝去されました。その当日朝8:50分頃にセンターに電話がありました。「今日は体調が悪いので、休みます」というお電話でした。いつも7時位に出勤される馬場先生が来られないのでどうしたのかなーと、心配している矢先でした。それはおかしいということで、市村局長、徳永事務部長、杉浦看護部長と私で近くのマンションに駆け付け、大家さんに鍵を開けていただき部屋に入りました。馬場先生は寝床に横になっておられ、気分が悪くなって嘔吐したということでした。意識はあり、私たちの問いかけに対して答えてくれましたが、脈が弱く不整脈があるような状態でした。大至急救急車を呼び、鈴木センター長にお願いして府立急性期総合医療センターの方に杉浦看護部長と私が付き添い救急搬送しました。救急外来で検査と処置を受け、その結果を待っている間に急に意識が消失し心停止が起きました。



倉敷から急いで奥様が駆け付けた時は、もはや蘇生に反応せず人工呼吸器につながれた状態でした。医師の説明では、急激に重症型の大動脈解離が進行し蘇生不可能な状態とのことでした。こうした形で馬場先生は急なご逝去となり、だれも予期できない形で天国に召されました。奥さま始めご家族、そしてセンターの職員、利用者さま、利用者ご家族、馬場先生のお人柄を知る誰もが突然のご逝去に悲しみの涙を流しました。そしてご遺体をご自宅のある倉敷へ運ばれる途中センターにも寄っていただき、多くの職員が馬場先生との別れを惜しみ冥福を祈りました。そして11月26日に職員の協力により奥さま、ご長男、ご長女、お孫さんのご臨席のもと「馬場清先生とのお別れ会」をセンター5階ホールで持ちました。200名以上の職員始め利用者さま、利用者ご家族が参加しました。馬場先生のセンターでの献身的なお働きを感謝し、40周年記念講演のビデオや葬儀の際流されたスライドを見ながら思い出を語りあいました。馬場先生のご家族も馬場先生のセンター内での隠されたお姿を知ることができ大変喜ばれて帰られました。

馬場先生は、1968年京都大学医学部を卒業、69年同大付属病院小児科で研修、71年以後福井県立病院、京都大学付属病院、倉敷中央病院、国立循環器病センターを経て、79年倉敷中央病院小児科医長に赴任、同病院心臓病センター小児科主任（兼任）、さらに89年小児科部長、翌年主任部長、総合周産期母子医療センター長、2003年倉敷中央病院副院長を歴任されました。退職後残る余生を重症心身障害児者の方々のために働きたいとの熱い思いを持っていただき、2008年から大阪発達総合療育センターに小児科医として赴任して下さいました。

馬場先生は、小児循環器疾患の大家であり、多くの弟子を養成した方でした。馬場先生を慕う倉敷中央病院時代の患者さま、患者ご家族、そして若い医師もとても多く、馬場先生の突然のご逝去を驚くと同時に悲しみの意思を現わされました。2008年8月全国心臓病の子どもを守る会岡山支部で「馬場先生への感謝の集い」が開かれ、次のような文章が書かれています。「馬場先生は、倉敷中央病院で、30年間、心臓病児を診続けて下さいました。先生の優しい言葉、表情に救われた家族は数しれません」この言葉は、当センターにおいても全く同様であり、先生の優しい言葉、表情に救われたご家族は数しれないと思います。

馬場先生、本当に有難うございました。馬場先生は非常に謙遜で多くのことを語りませんでした。私たち職員一同、先生の後姿から多くのことを学ばせて頂きました。先生の利用者さまや利用者ご家族への愛情、若々しく熱心に学ぶ姿、多職種の職員に対する配慮とチームワークなどを大切に受け継いでいきたいと思いません。どうか天国で安らかにお休み下さい。ご冥福を心から祈ります。

最後に利用者さまの一人藤本拓也さんが私にしてくれた言葉を贈ります。

「ばばせんせいは いいひとでした。ぼくのなやみをきいてくれた。ぼくもたよっていました。11がつ26にちのおわかれは ぼくもでる。たぶんばばせんせいのきょうだいもきつといいひとだとももうよ。おくさんはいいひと、こころからそうおもう」

馬場先生、たくさんの笑顔と慈しみの心、ありがとうございました
心よりご冥福をお祈りいたします



クリスマス会にて



卒業式にて



藤本卓也さんの送る言葉



梶浦理事長の弔辞

馬場清先生お別れ会風景

